

第10回小平市長期総合計画基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年10月29日（木）午後3時から午後4時35分
開催場所	小平市役所6階 大会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長</li> <li>・委員 17名  高橋裕子会長                      栗山丈弘副会長  伊藤規子委員                      加藤順子委員                      神山敬次委員                      川口幸子委員  市東和子委員                      鈴木庸夫委員                      竹田広輝委員                      出口みちたか委員  橋本直子委員                      古川満久委員                      細江卓朗委員                      松尾早智子委員  松田肇委員                      宮奈彰男委員                      矢口誠委員</li> <li>・事務局 3名  企画政策部長    企画政策部総合計画担当課長  企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長</li> <li>・傍聴者 7名</li> </ul>
会議次第	1   （仮称）小平市第四次長期総合計画 基本構想（答申）について 2   委員からの挨拶
配布資料	<b>当日配付資料</b> 資料1   （仮称）小平市第四次長期総合計画（答申案）からの修正内容 資料2   （仮称）小平市第四次長期総合計画 基本構想（答申） 資料3   （仮称）小平市第四次長期総合計画 基本構想（答申）補足資料 資料4   （仮称）小平市第四次長期総合計画の策定経緯 資料5   中期実行プランに基づく長期総合計画の運用 資料6   小平市第四次長期総合計画基本構想特別委員会要旨

<b>開会</b>	
<b>1   （仮称）小平市第四次長期総合計画 基本構想（答申）について</b>	
事務局	資料1、2、3に沿って説明。
会長	事務局のご説明により、審議会として取りまとめた「（仮称）小平市第四次長期総合計画 基本構想」について、小林市長とも共有させていただいた。この基本構想について、小林市長に答申する。
<b>会長から答申</b>	
会長	<p>令和2年10月29日小平市長小林正則様。小平市長期総合計画基本構想審議会会長高橋裕子。「（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想について（答申）」。</p> <p>令和元年7月25日付平企政発第11号で諮問のありました（仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想について、別添のとおり答申いたします。</p> <p>本審議会では、市民アンケート調査や市民ワークショップ、中学生・高校生・大学生・外国人インタビュー、小学校出前授業等による市民からの意見に加え、社会潮流の検証を踏まえ、小平市における現状と課題、まちづくりの方向性など、委員の</p>

	<p>豊かな経験や幅広い知識をいかしながら熱心に審議を重ねてまいりました。そして、時代の大きな転換点にある、コロナ禍に立ち向かう今だからこそ、これから予測のできない様々な変化に対応できる力量を持った次世代を育み、持続可能な社会を構築していくということを重要なゴールに掲げ、創意工夫して基本構想を取りまとめました。</p> <p>基本構想に掲げた「つながり、共に創るまち こだいら」は、私たちが目指す将来像です。人と人とのつながりの中で、あらゆるものが受け継がれ、新しい価値が生まれます。また、つながりの中で守られ、育てられ、新たな価値を創りあげていくというビジョンを表現しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大は、価値観や社会のあり方に大きな衝撃と変化をもたらし、社会全体が新たな日常に向けて歩み始めています。</p> <p>今後はこの答申を踏まえ、小平市が持つ地域特性を最大限にいかし、誰もが心豊かに、いきいきと活動できる活力あるまちづくりを進めていただきますようよろしくお願い申し上げます。</p>
<b>市長から挨拶</b>	
市長	<p>市長の小林でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>令和元年7月に審議会が設置され、この間、今も会長から話がありましたように、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、審議会の運営におきましても大変ご苦労があったことと思われませんが、高橋会長をはじめ、皆様方にはこの危機を乗り越えながら大変なご尽力をいただきまして、次期長期総合計画基本構想を取りまとめいただきましたことに対しまして、改めまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、私たちが「当たり前」と思っていた様々な日常を一変させ、価値観や社会のあり方に大きな変化をもたらしつつあります。それぞれの人が、それぞれの悲しみや不安、戸惑いを感じながら手探りで過ごしてきたこの間は、大切にしたいもの、変えていかなければならないものが問われる期間でもあったと感じております。</p> <p>このような中でいただきました基本構想の答申は、非常に意義のあるものと受け止めております。</p> <p>答申をいただきました基本構想の基本目標であるひとづくり、くらしづくり、まちづくり、またそれらを横断する二つのプロジェクトに、小平市にある人や物、そして文化などの資源を結集しながら総合的に進めていくことで、将来像であります、「つながり、共に創るまち こだいら」が具現化できる、そう確信をいたしております。</p> <p>今後、今まで以上に市民の皆様と行政が協働連携し、魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。</p> <p>最後になりますが、委員の皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。まして挨拶とさせていただきます。</p>

	<p>これまで長期間に渡りましてのご尽力に対しまして、改めまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。</p>
<h2>2 委員からの挨拶</h2>	
委員	<p>この審議会が始まった時はこのコロナ禍の状況を予想していなかった。コロナが終息していない中予測がつかない時代であるが、これまでを振り返り今後のことを考えると、ICT 技術がとても大切になってくると思っている。子どもたちを育てる上では、こうした ICT 技術の活用についてぜひ推進していただきたい。</p>
委員	<p>会長を始め事務局には、多様な意見をまとめていただき感謝している。「つながり、共に創るまち こだいら」は素晴らしい将来像である。これからも私たち自身がこの将来像を目指し、素晴らしい小平を創っていきたいと思っている。小平市にはいくつもの高等学校等がある。学校に通われている生徒や学生の皆様に、この小平の素晴らしい環境の中で生活したいと思っていただき、小平になるべく残っていただきたいとの気持ちでいる。</p>
委員	<p>コロナ渦で様々な出来事があり、大変印象深かった。国土交通大学校の代表としてこの審議会に参加し、基本目標Ⅲのまちづくりを中心に思いを述べてきた。それらを盛り込んでいただき、ありがとうございました。計画を冊子としてこれからまとめていくことになろうかと思うが、イラストや写真など、小平市らしさが伝わると良い。今後とも「つながり、共に創るまち こだいら」がますます発展することを祈念する。</p>
委員	<p>審議会での議論も活発であり、パブリックコメントをはじめ市民の皆様のお思いや関心の高さを感じる場面が多々あった。会長、副会長、事務局のご努力に敬意を表したい。地元の金融機関としてこの審議会に参加し、基本目標Ⅲのまちづくりを中心に意見を述べてきた。市内の地域産業の活性化がまちのサステナブルとして重要になると考えており、しっかりと盛り込んでいただいた。今後具体的なプランとなり、市民の皆様で実現していくことになろうかと思う。十数年に一度の基本構想策定の機会に参加させていただき感謝している。</p>
委員	<p>この貴重な審議会に出席させていただきありがとうございました。私は30年近く民生委員、児童委員として地域活動において高齢者から乳幼児まで多くの方々と関わってきた。高齢者にとっては、ずっと住み続けたいまち、終の棲家としての小平の視点、若い方にとっては、誇れる小平の視点を念頭に意見を申し述べてきた。会長をはじめ事務局が、多くの皆様の多様な意見を丁寧に受け取って、この基本構想を取りまとめていただいたことにとっても感謝をしている。</p>
委員	<p>これまで、市の様々な計画策定に委員として携わってきた。そのような経験も踏まえ、この審議会では市内商工業の発展について申し述べてきた。これまでも商工業の発展に関する視点はあったかと思うが、今回申し述べてきた意見を噛み砕いて盛り込んでいただけた。事務局に感謝するとともに実現することを期待する。</p>
委員	<p>この審議会に参加させていただきありがとうございます。コロナという未曾有のパンデミックに直面し、価値観の変容という中で、情報通信や多様性の尊重など、第</p>

	<p>三次長期総合計画にはなかった視点について、ひとづくりやまちづくりを中心に提言してきた。それが基本構想に反映されたことを光栄に感じている。市制施行 100 周年を見据えた形で、特に私のような若者がこれから活躍していくという視点も入り、多様な世代がこれから小平市で活躍できるような計画になったと考えている。第三次長期総合計画の「躍動をかたちに 進化するまち こだいら」を総括して、次の「つながり、共に創るまち こだいら」とつながっていったと思っている。</p>
委員	<p>都心に通勤するベッドタウン小平のイメージを持って 10 年ほど前に小平市を選んだ。現在は週の 3 分の 1 程度通勤を続けながら、残りは在宅勤務でテレワークをしている。サラリーマンの立場として、これまで小平市の行政について理解しておらず、そもそも興味がなかった。しかし、この審議会に市民公募委員として参加し、計画の策定過程や委員の皆様のまちづくりにおける観点などをたくさん知ることができ、とても良い機会となった。私としては、基本構想の将来像である「つながり、共に創るまち」の実現に向け、今後 12 年間をかけて、実際に市民の皆様が実感できるような環境づくりに取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>毎回の審議会で、委員の皆様の小平愛や熱意を感じとても感銘を受けた。様々なご意見から、無知であった分野についても学ぶことができた。会長は委員の発言を促し話の流れを整理してくださるなど素晴らしいファシリテーションに感謝している。ありがとうございました。事務局はコロナ渦において zoom や LINE の活用、動画配信による周知、委員とメールでのやりとりなど様々な工夫を凝らしてくださった。目指す将来像をはじめとする基本構想は、市民、事業者、行政などがまちづくりの主体となって連携し合い協働を進めていくことで、様々な困難を共に乗り越えていこうとする強い気概が感じられる素晴らしい内容になった。基本目標Ⅱのくらしづくりでは、「性的指向・性自認」について深く議論した末、ありがたい姿にフレーズとして入ったことは良かったと思っている。私も一市民として、12 年後の将来像の実現に向けた取組を行っていききたいと思う。</p>
委員	<p>この審議会で小平市との関わりができ、会長をはじめ委員の皆様、事務局と顔見知りになれたことは非常にありがたく思っている。基本構想は大変良くまとめていただいた。私は他の自治体で、大規模な再開発による都市基盤整備や交通基盤整備に携わってきた。審議会でも最初の頃は都市基盤整備を中心に意見を述べてきた。一方で、委員の皆様の様々なお話を伺う中、小平の特性である自然と文化、この豊かな緑をしっかりと保全をしながら、人と人とのつながりを大切にしていかなければいけないんだということを改めて勉強させていただいた。本当に感謝申し上げたい。目指す将来像「つながり、共に創るまち こだいら」はスタートの位置づけになる。各分野別の個別計画に「つながり」と「共に創るまち」をしっかりと植え付け、我々委員も含め皆様で協力しながら新しい価値を生み出し、新しいサービスを展開していく思いを持って、今後小平を発展させていくことが必要と思っている。</p>
委員	<p>この審議会に参加させていただいて非常に良かった。市民ワークショップに参加して市民の意見を聞き、自分でも調べて勉強し、審議会で発言して教えられることも多くあった。基本構想策定の過程で新型コロナウイルスが発生し、こうした危機へ</p>

	<p>の対応についても検討できた。そういったことから、コロナ禍の状況下で策定が進められたことは良かったのではないかと。事務局にも若い方の意見聴取やウェブ会議、LINE、動画の導入など工夫をしていただいた。今後は4年間の中期実行プランを策定し、PDCAをしっかりと回しながらそれぞれの期間で実行したと反省点を次のプランにいかしていきながら12年間、良いまちづくりを積み上げてもらいたい。私も市民の一人としてそういった活動の中に今後とも参加していきたいと思っている。</p>
委員	<p>私は一市民として長く小平に住んでおり、NPO法人で子育て支援、障がい者支援、高齢者支援にも携わっている。縁があってこの審議会に参加させていただいた。様々な知識を持っている委員の皆様に囲まれとても勉強になった。事務局もスタートした頃は予想もしなかった状態で進めていかなければならず、リモート会議など大変な苦労の中、多様な意見を基本構想としてまとめていただいた。この基本構想を特に若い世代を中心に一人でも多くの市民に知っていただき、市役所の各部署とも連携を取りながら実行・実現していくように進めていただくことが大事なことである。「つながり、共に創るまち」、そして「安心して安全に住み続けられるまち こだいら」を実現するよう、私も委員の役目は終わるが一市民として見守って協力できることはやっていきたい。</p>
委員	<p>毎回委員としてこの審議会に参加することで、ふるさと小平の過去の状況、現在の動向、そして今後の方針などについて貴重な多くのことを学び、教えていただいた。また市の会議では初めてとなるzoom会議にも参加し、人生初の貴重な体験をさせていただいた。市制施行100周年を見据えた令和3年度から令和14年度の12年間の計画を策定し、委員の役割は終わるが、今後は一市民として総合計画の推移を見守っていくことも元審議会委員としての我々の使命だと思う。そして叶うならば12年後に動き出すであろう第五次長期総合計画の委員として、再度議論に参加できると良いと思っている。事務局の皆様、長い間大変ご苦労様でした。ありがとうございました。</p>
委員	<p>昨年の夏、この審議会が始まった頃には考えもしなかった新型コロナウイルス感染症が広がり、医療機関や医師会の対応も激変した。医療機関としては感染予防を徹底することを求められたが、初めの頃はマスクはない、アルコールはないという状態で苦労した。その時、市の備蓄のマスクを医師会に貸与していただき、本当に助かった。医師会としては発熱外来やPCR検査体制の拡充など取り組んでおり、市民の皆様には少しでも安心していただきたい。ただ、海外では感染状況が最近ひどくなっており、日本でもインフルエンザ等との同時感染、同時流行が危惧されており、今後も気が抜けない状況である。このように、たった一年で激変することを経験し、長期総合計画の12年後はどうなっているのか予測もできないが、基本構想の答申は皆様の英知を結集して本当に素晴らしいものとなった。市にはこの答申の意思をしっかりと把握していただき、その場その場で臨機応変に行っていただきたい。この審議会に参加させていただき勉強になった。ありがとうございました。</p>
委員	<p>私は小平で生まれた。祖父母からは、江戸時代、地主等が都市計画を考え、賛同者</p>

	<p>を募って開発してきたと話を聞いてきた。戦後の小平市の航空写真を見ると農地ばかりである。戦後 75 年が経つ中、住民一人ひとりがまちづくりを考える時代となった。長期総合計画の策定に一般市民が携われるようになったことは大変なことである。住民が自分たちの郷土愛をいかしてどのような住みよい場所をつくっていくのかを考えることが、自分たちにできることだと思う。代々話を聞いてきた中で、私自身もこの審議会に参加し、自分たちの住んでいるまちの将来像の話ができるところまで来て、やっと市民になれたという感じがする。このような機会をいただき、皆様に深く感謝を申し上げたい。</p>
委員	<p>知見の深い委員の皆様と 10 回の審議会を通して様々に議論を交わし、本日答申を提出することができたことを大変うれしく思う。そして「つながり、共に創るまち こだいら」を目指す将来像とすることができたことは非常に意義があることではないかと思う。「つながり」という言葉は決して珍しい言葉ではない、新しいものではないかもしれないが、今日の社会が、希薄化が進み個人だけではなく社会全体に孤立化が広がっているということの裏返しとして「つながり」が大切なキーワードとしてあがったのだと思っている。孤立化を進めない豊かなまちをつくっていく思いを込めた「つながり、共に創るまち こだいら」という重要な将来像を掲げることができた。これは、この審議会と並行して、あるいは審議会に先立ってアンケート、ワークショップ、インタビューなど様々な取組を事務局が進め、様々な方々と意見交換をしてくださった。行政が市民と向き合い、つながりを創出する姿勢を事務局が体现してくれた、そういった成果ではないかと思っている。そのことに対して感謝と敬意を表したい。そして、「つながり」のハブとなるキーパーソンというのは必ず必要になってくると思う。ここにいる委員の皆様は、まさに一人ひとりがキーパーソンなのではないかと強く感じている。本日のご挨拶でも、「ここが始まりだ。つながりを感じられる環境をつくっていくことが必要だ」とご指摘いただいた。そうなるためには、この審議会は終わりであるが、我々がキーパーソンとしてまちに出て、またお互いに顔を合わせそれぞれの知見を繋ぎ合わせて、豊かなまちをつくっていくことが大切だと思っている。私も一市民としても、こだいら観光まちづくり協会としても、あるいは大学の教員としても、様々な立場で皆様と今後も色々な所でつながり、色々な取組ができることを楽しみにしている。ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは本日ご欠席の委員からも、ご挨拶をいただいているということである。事務局よりご紹介いただきたい。</p>
事務局	<p>本日 3 人の委員の方が欠席されており、いただいているご挨拶文を代読させていただきます。</p> <p>まず 「残念ながら出席できませんが、皆様によるしくお伝えください。」とのメッセージを承っている。</p> <p>次に、 「私が委員として参加することを思い立ったのは「小平の駅前の美観整備と飲食・買い物を楽しめるまち」＋「役所窓口・図書館、保育園等も考慮した便利なまちづ</p>

	<p>くり」が、若い世代に応えることになるとの思いからでした。特に、小平駅前、グリーンロード、ルネこだいらや小平霊園の人出もいかしきれていないと思えます。そこで、審議会では基本目標Ⅲのまちづくりグループを希望して、意見を述べてきました。第四次長期総合計画には、鉄道駅を中心とした利便性の高い生活圏の形成を目指す「小平市都市計画マスタープラン」が折込まれましたから、その実現に近づくことを期待しています。また、この審議会を通して、小平が市民活動の盛んなまちであることを再認識しました。小平の「ひとづくり」「くらしづくり」の牽引役として、その活動が益々広がることを祈念申し上げております。素晴らしい計画の立案を皆様と一緒に参画できたことを嬉しく思います。今後とも「つながり、共に創るまち こだいら」を目指してまいりましょう。」とのメッセージを承っている。次に、</p> <p>「開発」と「保全」について、この審議会においても、多岐にわたる意見交換がありました。「開発」と「保全」に関する考え方は様々なのかもしれません。得に、風致地区についての考え方の違いについて、長年景観まちづくりセミナーの企画運営のお手伝いをさせていただいている中で感じています。小平は、青梅街道や東京街道などの古くからある道や、玉川上水と用水路網、そして近代の水道として狭山湖からの水道道路などの骨格が残る、特徴あるまちです。小平には4か所の風致地区がありますが、このような自治体は都内には小平市しかありません。市民アンケートからも、多くの皆様がこうした小平の特色を、高く評価しているように思います。「開発」と「保全」は対立するものではなく、新しいまちづくりや道路の計画などは、むしろこれらの骨格を将来に向けて更に特色あるものにすることができるチャンスだと私は考えます。特色ある美しいまちは、住む人に愛され尊敬されるようになります。地域資源や歴史的景観資源という変わらないものの価値を学習し共有することは、これからのまちづくりを考える基本です。景観行政をいつか本格的にスタートさせて、子どもたちはもちろん、大人になってから小平に住むようになった人たちにも、こうした学習が続くことを期待します。」</p> <p>ご紹介は以上である。</p>
<p>会長</p>	<p>最後に私からもご挨拶させていただく。本当に1年3か月ありがとうございました。12年後の未来に行ってこの1年3か月のことをどのように思い出すか考えた。</p> <p>第一に、委員の皆様、事務局がとても熱心であった。熱心という言葉は本学創始者の津田梅子が開校式の式辞の中でも述べていた言葉で、「真の教育には…教師の資格と熱心とそれに学生の研究心とであります。」と述べている。その熱心という言葉がまず私は記憶するだろうと思った。</p> <p>第二に、ここでの議論が非常に白熱していた。言葉の使い方や言葉が意味するものについて皆様が本当に熱心に白熱した議論を正直にぶつけ合われた。</p> <p>このことが私は非常に心に残っている。</p> <p>この審議会がスタートしたばかりの昨年9月14日に、「小平市女性のつどい創立40周年記念講演会」に招いていただき、私は「ビジョナリーとしての津田梅子 女性の社会参画にかけた夢」というタイトルでお話しさせていただいた。ビジョンを持つ</p>

	<p>ている人のことを「ビジョナリー」という。そういう意味では、この審議会に参加して下さった委員の皆様、事務局、意見を寄せて下さった市民の皆様、そういう方々が皆ビジョナリーであったということ強く感じている。パッションとビジョンを持った方々がこの審議会に参画して下さり、また意見を寄せて下さった市民の皆様もこの小平市の発展についてパッションとビジョンを持っていらしたビジョナリーの方であったと私は記憶するだろうと思う。</p> <p>私は小平市で働く者として、そして次世代を育成していく者として、小平市の今後の発展にぜひ学生と共に関わっていききたい。今後この計画の概要版について、本学の学生たちが英訳するという事も進められている。外国籍のあるいは日本語が母語ではない小平市に在住している皆様にもこのプランをお届けする力添えができることを大変うれしく、そして誇りに思っている。これだけのビジョナリーに囲まれてこの1年3か月を過ごさせていただいたことを、本当にうれしく、そして大変誇りに思っている。長い間本当にありがとうございました。</p>
市長	<p>委員の皆様のご挨拶に感銘を受けた。小平市は玉川上水や野火止用水、あるいは50キロ近くに及ぶ用水路など、水とみどり共存する環境である。一方で都心から20キロくらいの距離にあり、一定程度都市としての交通網の整備、インフラ整備を進める必要がある。私はまさに小平市は東京都の中で数少ない両面を持ったまちだと思っている。こうしたことから、小平市を一言で表現するキャッチフレーズとして「都会から一番近い プチ田舎」が生み出された。生活していく上で最低限の利便性を確保しながら、人間の手によって管理ができる範囲の中での環境をしっかりと維持していく。これが小平市のまちづくりである。本日の基本構想の答申を尊重したい。また、基本構想策定の過程で捉えた課題を真摯に受け止める。本日のご挨拶にもあったように、皆様がこの第四次長期総合計画の生みの親である。どうかご自身の立場や持ち場でぜひ計画の担い手として、場合によっては監視役としてまたご意見をいただけると幸いです。本当に長い間ありがとうございました。</p>
会長	<p>それでは最後に事務局よりそれぞれお願いいたします。</p>
事務局	<p>委員の皆様には会議の場だけでなく、メールなどでも多数ご意見を寄せていただいた。本日は始まりという言葉もいただいた。我々職員としてはこれをしっかり始まりとして取り組んでいくことが使命だと思っている。今後市議会に基本構想を議案として提出し、審査いただく。審議会委員の皆様にはその状況についてもご報告したいと考えている。本当に1年3か月どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>会長からもお話があったとおり、今後より良いまちづくりを進めていくための真摯な議論をこの審議会ですていただけたと、本当に心から感謝をしている。我々にとってはまさに計画というのはつくって策定されたところからがスタートということになるが、我々だけではなく委員の皆様、そして市民の皆様と「つながり、共に創るまち こだいら」の実現に向け共に歩んでいければと思っている。これからもよろしく願いいたします。本当にどうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>会長、副会長には1年3か月に渡りご尽力賜り、このような良い雰囲気最後まで進むことができ御礼申し上げます。この審議会は20人という体制で、最初1、2回目</p>

	<p>は一人ずつ2、3分話したらもう時間いっぱいという状況であった。それを柔軟に変えようということで、その後グループに分かれて濃厚な議論ができるようになったというようなこともあった。さらに、コロナの発生によって、まさに小平市では初めてのウェブ会議を取り入れた。これは本当に皆様に協力いただいた成果だと思っている。徐々にそういった会議が市の中でも広がってきており、その第一歩をこの審議会で踏み出せたというのは大きな意義がある。コロナで全く変わるのではないか、この内容でいいのかという声もあった。しかしながら、目指す将来像、「つながり、共に創るまち こだいら」は委員の皆様20人全員に共感していただいた将来像である。この将来像に向かってまさに柔軟に、その都度その都度形を変えながらになるかもしれないが、12年後どんなまちになるか、それは「つながり、共に創るまち」である。これを多くの市民の皆様にも共感してもらいたい。我々はそのために取り組んでいくが、できることであれば、委員の皆様がまた地元に戻って、少しでもこの目指す将来像を地域に広げていただければありがたいと思っている。そして3つの基本目標と9つの方針に沿って中期実行プランを策定する。それがまさにこの将来像を具現化する具体的な事業になる。委員の皆様にもこれから策定する中期実行プランも見届けていただきながら、また何かあればご意見を賜りたいと思っている。</p> <p>本日のご挨拶にもあったが、この審議会で新しい出会いがあり大変貴重な財産になろうかと思う。今後も様々な場面を通じてこのつながりを保ちながら、更に広げていきたいと考えている。今後も小平市政に対してご期待とご協力をお願いできたらと思っている。本当に長い間に渡りまして皆様方にご協力いただいたことを改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>これで、第10回小平市長期総合計画基本構想審議会を閉会する。</p>
<p>閉会</p>	